

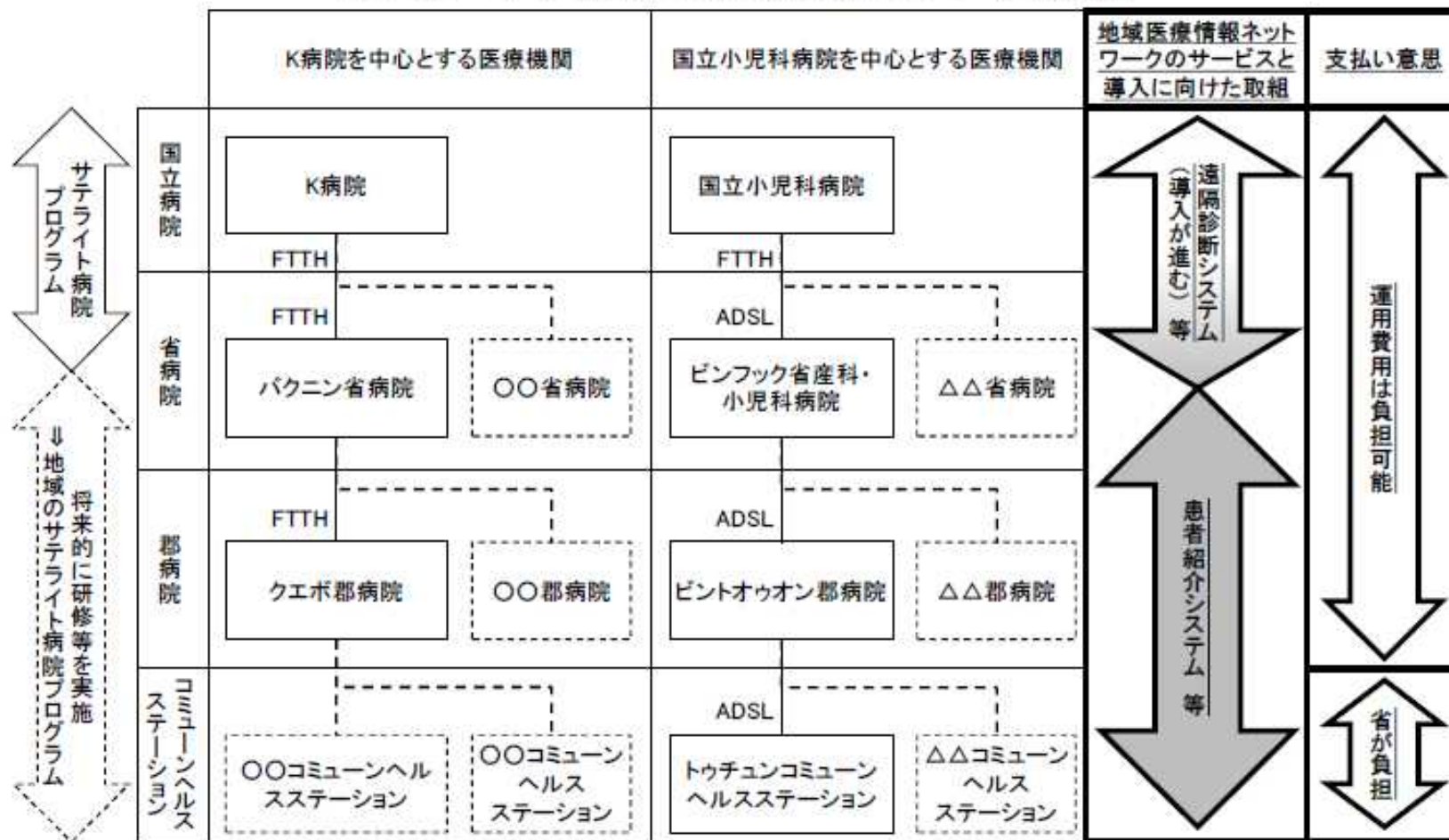
ベトナムにおける地域医療情報ネットワークの方向性（1/3）

ベトナムにおける地域医療情報ネットワークの導入に関するヒアリング調査から、ベトナムMOHでは国立病院が省病院を教育指導するサテライト病院プログラム等を推進しており、院外との通信回線がFTTHであるK病院と国立小児科を中心とする医療機関では、教育指導に役立ち、通信容量が多い医療画像等を交換する遠隔診断システムの導入を進めていることが分かった。また、バクニン省病院では将来的には自らが中心となって下位の医療機関を教育指導し、地域の保健医療サービスの改善を図る地域のサテライト病院プログラムを実施したいと考えていることも分かった。

ベトナムにおける地域医療情報ネットワークの方向性としては、国立病院と省病院に対する地域医療情報ネットワークのサービスにおいて、サテライト病院プログラムに基づき導入が進んでいる遠隔診断システム等が有望であると考えられる（図表3-6）。なお、通信回線の整備が遅れている省病院等においては、遠隔診断システムの導入に当たって通信速度が速いFTTH等の整備等が必要になる。また、院外との通信回線がADSLが多い省病院や郡病院、コミュンヘルスステーションに対する地域医療情報ネットワークのサービスでは、患者の医療情報を交換する患者紹介システム等が有望であると考えられる。省病院が郡病院・コミュンヘルスステーションと患者の医療情報を共有し、診察の助言等を行うことによって地域の保健医療サービスの改善が期待される。なお、省病院や郡病院、コミュンヘルスステーションでは地域医療情報ネットワークの導入に向けて、日本側が負担して仕様や効果、費用等を検証する実証実験を歓迎している。

ベトナムにおける地域医療情報ネットワークの方向性（2/3）

図表・43 ベトナムにおける地域医療情報ネットワークの方向性



注 1：破線の政策は未実施、破線の医療機関はヒアリング調査を行っていない想定医療機関を表す。

注 2：地域医療情報ネットワークのサービスで、墨色が濃いほど、実証実験への意欲が高いことを表す。

ベトナムにおける地域医療情報ネットワークの方向性（3/3）

また、ベトナムの地域医療情報ネットワークに対する支払い意思では、国立病院と省病院、郡病院は運用費用については負担可能であると考えている一方、収入がほとんどなく、省政府の補助を受けるコミュンヘルスステーションは省政府が費用を負担すべきであると考えている。このため、ベトナムにおいて地域医療情報ネットワークを導入するに当たっては、通信回線やPC、サーバーの整備、ITシステムの開発など多額の整備費用は技術協力等のODAを活用して賄い、コミュンヘルスステーションの運用費用は省政府が負担することが適切であると考えられる。